

大都市周辺都市における都市づくりに関する研究 ―堺市を事例として―

共同研究グループ代表者 堺市 佐藤 幸夫

1. 研究の背景と目的

大都市周辺都市にとって、大都市に近いということは地理的に大きな財産であったが、そのため、都市機能の多くを大都市に依存する形態となり、それが都市としてまとまりを欠く状態を生じさせるとともに、市民の地域共同体的な意識も崩壊させ、自分たちの都市を自分たちで建設しようという意識のない人々を増加させた。

社会経済状況が安定成長に入って久しい現在、人々の価値観も多様化したなかで、これら大都市周辺都市のうち、特に産業都市と言われ、かつての高度経済成長を支えたのにもかかわらず、現在、鉄鋼や造船のような構造不況型の産業が多く立地し、その活力の伸び悩みがみられる都市が今後どのような方向を目指し都市の計画を立て、それを実践していくべきか、その方策はどうあるべきかを堺市を事例として研究しようとするものである。

以上の認識のもと、堺市・大阪府の行政マン、地域の各種企業、鉄道関係者、産官学各分野の方々の構成による研究会がスタートした。

2. 初年度の議論

メンバー間の共通認識を得るため、敢えて特定のテーマに絞らず、堺市が今かかえている都市問題に関係すると思われる事例について話題提供、議論を進めた。その内容をいくつか挙げると

- ① 現在の堺の中心（へそ）と考えられる南海高野線（堺東駅）を中心とした都心部、また東西に連携すべき南海本線（堺駅）及びJR阪和線（堺市駅）のありようについて。
- ② 堺東駅と堺駅を東西に結ぶ、堺市の売り物の一つとして挙げられるべきシンボルロードのより積極的な生かし方について。
- ③ 南海高野線（中百舌鳥駅）の副都心開発と都心整備の関連について。
- ④ 関西新空港の建設に伴い、空港連絡用列車と堺駅周辺再開発をどのようにリンクすべきか。（堺に人を降ろす→堺の魅力）
- ⑤ 新日鉄堺の高炉停止や、日立造船の堺工場撤退等で代表される臨海部の再編成の動きに対して行政として今一番なすべきことは何か、何ができるのか。（今こそチャンスでありかつ危険な状態ではないか）
- ⑥ 堺市の交通について
 - a) 主要な幹線道路は近年整備が進んできており、それを補完すべき市道の整備の遅れをどうするか。
 - b) バスによる輸送システムは堺市にとって切り離せないものであるが、これは前述の道路の整備の立ち遅れと、そのルートの分かりにくさから十分に機能してとは思われない。方策は？
（堺－堺東シャトルバスの発想の発展）
 - c) 現在ある鉄道（南北方向のみ）だけでは、堺市内をネットすることができない。ではどのような交通システムが考えられるか。物理的、経済的に可能なものは？
 - d) かつて、チンチン電車は高度経済成長期に地下鉄等にほとんど取って代わられたが、堺市に残っている阪堺電車は現在も健在である。街づくりにもゆとり、遊びがもためられる現在、風情あるチンチン電車の魅力を生かす工夫をし、上記c)の市内交通手段としても生かせないものか。
- ⑦ 堺市内における大きなブロック毎における（堺市を中心とする旧市内、臨海工業地帯、泉北ニュータウン、その間に挟まれたかなりの市街化調整区域を含む内陸部、北野田を中心とした南東部の市街地等）市民

Yukio SATO

意識の格差及び行政サービスのアンバランスをどの様に調和させるべきか。（堺市民としての一体感，共通認識の育成）

以上のような議論をとおり、昭和63年度の成果（都心，臨海部，都市内交通，堺の可能性，事業展開の戦略）がまとめられた。

3. 平成2年度の議論

施設論中心に堺のあるべき姿を初年度は議論したが、2年度は視点を変えて堺の街づくりを考えることになった。

それは、初年度の議論でも多々話題となったことなのだが、堺が古代あるいは中世からの歴史があり、また機能的にも多様な面をもっている街であるにもかかわらず、現在その街のイメージをつかむことが難しいのはなぜなのか。それを先ず追求するのを感じたからだ。生き、成長している堺の街に対する人々の潜在的、顕在的なイメージ（意識）を分析し、そして、そのイメージのうち、人々はどの部分を変化させ、どの部分を伸ばすことを望んでいるのかを検討し、初年度に行なった施設論に結び付けるのを感じた。

それは、施設論を先行したら、個性ある街づくり（堺らしさ）を標榜しながらも、結局は没個性の街づくりをしてしまう危険を感じたからでもある。

方法としては、先ず歴史的環境，社会的環境，物的環境等の分析により、都市イメージのバックボーンとなるべき、都市のカルテの作成。

次に、人々に対するアンケートを材料に、心理学で使われるSD法により、人々の都市に対するイメージの一定の軸を選定し、表わしたいと考えている。

その後、それをもとにして、変化させる方向、伸ばす方向を議論していきたいと考えている。

最終的には、その議論の方向をもとにして、初年度の施設論を再議論したいと考えている。

《ワークショップ案内》

と き：平成2年5月26日(土) 14:00～

ところ：堺市福祉会館（堺市役所裏）